



- 1 路面内の安全にサイクリングするための専用空間
- 2 明確な標示、バリアの処理/緩衝材、および標識

対人距離を十分に確保しながら、生活必須職従業員や他の人が安全に自転車やマイクロモビリティに乗るための空間を設けます。

即地的状況

- 多車線道路、利用度の高い広幅員車線のある街路。
- 病院やその他の生活必須サービスへのアクセスを提供する街路。公園やその他のオープンスペースへの接続経路。

鍵となる手段

- 路肩駐車帯または車両走行レーンを自転車レーンに転用する。任意：隣接する車両走行レーンを公共交通の乗車所、荷捌き所、または駐車場に転用する。
- バリアと標識で車線の始点を指定し、サイクリストの通行を妨げないように配置する。
- トラフィックコーン、弾性視線誘導標、ポラード、プラスチック製バリア、自立型視線誘導標、トラフィックバレルなどの反射バリアを用いる。

実施計画: 計画には数日間、実施には数時間。

期間: 数日間から数カ月間。



出典: トロント市

カナダ・トロント

ActiveTOは、塗装と分離設備によって標示される新たな保護型自転車レーンを新設した。

計画

- 既存の自転車網、公共交通経路、実装待ちの自転車経路、既存の街路利用者の隙間を埋めることを優先する。
- 特に生活必須職従業員のために病院や主要の健康目的施設に繋がる街路、または主要な公共交通経路に沿った街路の安全性向上のために検討する。
- 車両走行レーンに隣接する共存道路、道路、公園、または海岸通りを検討する。

連携

- コミュニティ団体、社会サービス提供者、自転車連合、自転車店と提携し、雇用主を通じて従業員に働きかける。
- 利害関係者や支援団体に依頼してチラシを配ったり、ローカル/超ローカルなオンラインネットワークへの通知配信、または地元住民に安全に連絡を取る。
- コミュニティ団体を活用して、主要な障害や設計や区間の長さに影響を与える課題を特定する。

設計 + 実装

- 軽分離用の資材を用いて、自転車レーンとマイクロモビリティレーンを分離する。
- 端部の位置やその他の影響を受けやすいポイント(例:主要交差点、T字路交差点)では重分離を使用する。
- 駐車帯がある場合は、縁石から離すか、駐車を禁止して保護型自転車レーンを設ける。「浮遊式」駐車帯は、サイクリストをさらに保護することができる。
- 自転車レーンやマイクロモビリティレーンの始点、主要な交差点、その他の利用度の高い転向箇所においては、可動式バリアに標識を設置する。
- 一般的な仮設の車線規制標識(前方の車線閉鎖、右車線終了、または地域同等のもの)を車両閉鎖する前に使用する。
- 自転車や駐車の位置を示すために、仮設標識や標示を使用する。
- 復興計画では、資材を一時的なものから恒久的なものへと改良する。都市型自転車道設計ガイドを参照する。

モニタリング

- 重要な基準: 需要の数値と割合の変化。チューブカウンターのような自動装置を使用してカウントを収集する。
- 最初は平日と週末を毎日、その後は一週間で数日、設備の配置を確認する。



出典: madisonbikes.org



出典: クレディナ・スケンド

米国・ウィスコンシン州・マディソン

マディソンでは、交通バリケードに取り付けられた自立型視線誘導柱と閉鎖標識を用いて、新しい自転車レーンを設け、利用者間の対人距離を確保しながら、活発なレクリエーションを行うためのより広い空間を支援する。

アルバニア・ティラナ

ティラナでは、駐車帯を保護型自転車レーンに転用し、プラスチック製の弾性視線誘導柱と黄色塗料の標示を用いた。